



## 駐日大使は語る⑨

駐日英国大使

### ジュリア・ロングボトム

駐日大使は、各国の正式代表として日本に常駐する唯一の存在。

大使の目に、日本外交はどう映るのか。

インド太平洋への「傾斜」を進める

英国のロングボトム大使に聞く。

## 「広島アコード」で具体化する協力 日英関係は新たな時代へ

【インタビュー・構成】小南有紀

——大使は二〇二二年三月の着任以前にも、二度日本で勤務されています。

**大使** 合計三度にわたる日本での生活を通して、日本のダイナミズムを実感しています。一九九〇年に二等書記官として初めて駐日大使館に着任した時、日本の若者の海外志向の強さと、日本の国際化への息吹を感じました。公使として日本に戻ってきた二〇二二年は、ちょうど第二次安倍晋三内閣が発足し、日本が国際平和のために積極的な役割を果たす決意を明確にした年です。これは安全保障面での

英日の協力が大きく進展する契機となりました。

駐日大使への就任が決まった時、私はとても光栄に思いました。最初に日本に赴任した時には、まさか自分が大使になれる日が来るとは思ってもいませんでした。なぜなら、歴代の駐日大使は全員男性だったのですから。我が国初の女性の駐日大使として、私は英日関係の発展のために全身全霊で職務に励んでいます。

——日本での思い出の場所などはありますか。

**大使** たくさんありますが、やはり一番は長年暮らしてい

る東京です。東京は現代的でありながらも、日本の伝統と文化を体現する都市で、シヨッピンングから美術館まで何でも楽しめます。東京以外にも日本には魅力的な場所がたくさんあり、日本各地に私の友人がいます。例えば、「アートの島」として知られる香川県の直島では、美しい景色の中でたくさん斬新な芸術作品を鑑賞しました。広島は国際的かつオープンな都市で、人々はいつも温かくもてなしてくれれます。九州や北海道の雄大な自然を体感するのも大好きです。

## 英国外交の伝統とは

——歴史を振り返ると、英国は国際秩序の形成・維持に大きな役割を果たしてきました。英国外交の伝統とは何でしょうか。

**大使** 英国は「国益」を広く捉える国だといえます。世界のどこであろうとも、英国にできることがあるのなら、問題解決のための手助けを惜しみません。世界の平和と安定こそが、英国の国益に資するからです。

英国外務省についていえば、外交官の言語習得に力を入れており、私自身も日本語を学びました。英語は世界共通語ですが、赴任する国を深く理解するには、その国の言語

を習得することが不可欠です。

例えば、一六〇〇年に初めて日本にたどり着いた英国人のウィリアム・アダムスは、徳川家康から領地を与えられて、「三浦按針」と呼ばれるようになり、将軍の外交顧問として働きました。彼が幕府から信頼されたのは、日本語を習得して、日本人の心理や利害をよく理解していたからだと言われます。また、一九世紀後半に駐日公使などを務めたアーネスト・サトウは、当時の英国を代表する外交官の一人であり、優れた日本研究者でもありました。彼は政治・外交から自然・生態系まで、日本のありとあらゆることに精通していました。正直、アダムスやサトウに比べれば、私の日本に関する知識はまだまだですよ（笑）。

今日では、外交官に求められる知識やスキルが多様化しています。外国語だけでなく、人工知能（AI）やブロックチェーンなど、テクノロジやデジタル分野の知識も習得する必要があります。私が外務省のコロナウイルス対策本部長在任中に、私たちは世界各地の大使館から寄せられたデータを効率的に集約する方法を編み出しました。英国は、直面する課題に素早く対処するために、新しい手法を取り入れるのが得意な国だと思います。これも英国外交の「伝統」なのです。

## インド太平洋への「傾斜」と「広島アワード」

——英国はウクライナへの積極的な支援を継続しています。

**大使** ロシアによる違法な侵略が開始された当初から、英国は米国と協力して、ウクライナで起きていることの正確な情報を世界に発信してきました。これまでの英国の対ウクライナ支援は、約九三億ポンド（約一兆七〇〇億円）にのぼり、その約半分が軍事支援、約半分が財政支援と人道支援に充てられています。国連憲章に則った国際秩序の維持のため、これからも我が国はウクライナへの支援を続けます。

——G7広島サミットでも、平和がテーマになりました。

**大使** 広島サミットで、G7はウクライナへの連帯を示しました。今後、G7は経済だけではなく、安全保障でも一層重要な枠組みになっていくでしょう。平和記念公園での各国首脳による献花では、核兵器が二度と使われてはならないという強いメッセージが世界に発信されました。G7が国際秩序を維持する決意を示し、グローバル・サウスとの連携を深める上で、日本は議長国として類稀なるリーダーシップを発揮しました。リシ・スナク首相も、岸田文雄首相の手腕を賞賛しています。

——大使は六月の「G7栃木県・日光男女共同参画・女性活躍担当大臣会合」にも出席されましたね。

**大使** 英国政府を代表して、また女性大使として、会議に出席できたことはとても光栄でした。特に印象的だったのは、唯一の男性出席者だった小倉将信大臣（当時）が、日本が直面する課題を強く認識されていたことです。会議の直前に世界経済フォーラム（WEF）が発表した男女平等度ランキングでは、日本は一二五位（一四六カ国中）でした。しかし、女性の健康や教育については、日本は世界トップクラスです。ジェンダー平等を達成するカギは、女性の考え方は変わってきていると感じます。日本の女性がさらに活躍できる社会になることを期待しています。

——英国はインド太平洋への関心を強めています。今年七月には「環太平洋パートナーシップに関する包括的及び先進的な協定（CPTTP）」加入議定書に署名されました。

**大使** インド太平洋は、著しい経済成長とともに、安全保障環境が劇的に変化している地域でもあります。私が駐日大使に就任した二〇二二年三月、英国は『統合レビュー』を発表し、インド太平洋への「傾斜（Tilt）」を鮮明にしました。同文書でも謳われているように、日本は英国の「最



G7 広島サミット開催に先立つ5月18日、日英首脳会談で、強化されたグローバルな戦略パートナーシップ「広島アコード」が合意された

も緊密な戦略的パートナーの「一つ」です。日本の安全保障に関わる問題は、英国の安全保障にも直結します。それゆえ、英日は安全保障協力を大きく進展させているのです。

CPTPPは透明性や公平性という点で高い水準にあります。我が国はCPTPPに加入することで大きな恩恵を受けられると同時に、この枠組みのさらなる発展に寄与できると自負しています。

——八月三〇日にはジェームス・クレバリー外相が訪中しました。英外相が訪中するのは約五年ぶりです。

**大使** 英国は中国と協力関係を築きたいと思っています。

気候変動やパンデミックなど、中国との協力なしには解決できない問題は数多くあるからです。しかし、もし中国が英国や国際社会の利益を損なう行動をとるならば、私たちははっきりと異議を唱えます。中国と協力するためにどう向き合うか、今後も英国は日本とも連携しながら考えていきます。

——安全保障協力について、広島サミット前日に行われた日英首脳会談で「広島アコード」が合意されました。

**大使** 現在、英日は共通の脅威や課題に直面しており、かつてないほど強固な協力関係にあります。ぜひ実際に文書をご覧いただきたいのですが、「広島アコード」は経済と安全保障分野における英日の協力を、具体的かつ大幅に進展させる合意です。大使館のカウンターパートとして、この合意の実現に尽力いただいた日本外務省の欧州局西欧課の皆さんには心から感謝しています。

「広島アコード」では、観光・留学・研究協力・ワーキングホリデーなどを通じた人的交流の再活性化も謳われています。人と人とのつながり——特に若い世代の絆が、これからの英日関係を支えていくでしょう。駐日英国大使館は、政府・民間レベルの双方で、英日関係のさらなる発展のために全力を注ぎます。●